

公益社団法人日本トライアスロン連合 (JTU)

2020年度(令和2年度)第1回定時理事会 議事録

[1] 開催：2020年6月9日(火) 10:00～13:48

・方式：インターネット ウェブ会議方式

[2] 出席(理事23名、監事2名)：

岩城光英、國分孝雄、仲井公哉、大塚眞一郎、中山正夫、岸田吉史、飯島健二郎、山倉紀子、鈴木貴里代、村瀬訓生、和田知子、山根英紀、富川理充、豊岡正康、大関辰郎、園川峰紀、山倉和彦、小林洋、吉田隆雄、宮本悦子、大野徹雄、須山浩光、宮城直久(以上、理事23名) 萩原政吉、秋山智昭(以上、監事2名)

・オブザーバー(7名) 中山俊行(オリンピック対策チームリーダー)、中島靖弘(マルチスポーツ対策チームリーダー)、上田藍(アスリート委員長)、佐藤圭一(アスリート副委員長)、小池賢(事業企画委員)、吉越美佐、齋藤徹(以上、パラリンピック対策チーム2名)

・事務局出席(8名) 佐藤政人、坂田洋治、土屋佳司、児玉健太、萩原舞、長江千明、大岩葵、島村直子

[3] 議事の経過

JTU定款第6章(理事会)第34条(決議)により、ウェブ会議進行役の坂田事務局次長が出席理事ごとに確認し、定足数を満たしていることを報告した。定款33条(議長)により、岩城会長が議長として開催宣言を行い、同第23条(理事の職務及び権限)による会長及び業務執行理事の職務執行状況を報告した。その後、議事録確認者に大塚専務理事と園川理事、議事録作成者に事務方を指名し、議案の審議に入った。

第0号議案) 前回理事会議事録承認

2020年度第1回臨時理事会の議事録案について、メール回覧済であることを事務方が報告した後、議長が賛否を求めたところ、満場異議なく承認可決した。

・承認事項) 2020年度第1回臨時理事会(2020年5月15日開催) 議事録案

第1号議案) 2019年度事業報告・決算報告監査報告

標題について大塚専務理事から説明があり、秋山監事から監査報告があった。事業報告書に関し、これに係る質疑応答で修正箇所が指摘された後、議長が賛否を求めたところ、満場異議なく承認可決した。

- ・承認事項) 2019年度事業報告・決算報告監査報告
- ・修正箇所1) 4-1 1 認定記録会の実施 33) 千葉県会場2020年3月28日(土)は【中止】
- ・修正箇所2) 4-3 第7回パラトリアスロン強化合宿(2019/修善寺→宮崎に訂正)、パラトリアスロン2020年測定合宿【中止】

第2号議案) 定款の変更

標題について、大塚専務理事の説明に続く質疑応答の後、議長が賛否を求めたところ、満場異議なく提案内容と次回社員総会に提出することを承認可決した。

- ・承認事項) 定款第52条(事務局及び職員)

現在) 1. この法人の事務を処理するために、事務局を設け、事務局長・事務局次長、その他必要な職員を置く。

修正後) 1. この法人の事務を処理するために、事務局を設け、事務局長・事務局次長、その他必要な職員を置く。なお、業務状況に応じ事務総長を置くことができる。

- ・説明骨子) 業務範囲が広がっているため、業務の綿密な履行のために事業部制を敷くこととし、マーケティング事業部長や事業を統括する事務総長を設置することで組織の有効な動きを促す。

第3号議案) 2020年度事業計画(修正)・予算(長期借入含)の修正

標題について、大塚専務理事の報告に続く質疑応答の後、議長が賛否を求めたところ、満場異議なく承認可決した。

- ・承認事項1) 2020年度事業計画(修正)
- ・説明骨子) 3月25日の理事会での承認後、コロナの影響により中止・延期・見合わせとなる事業が相次いだ。現時点(6月8日現在)での計画を6月24日の社員総会ではさらにアップデートして提示する。
- ・承認事項2) 2020年度予算修正方針・2021年度予算想定方針及び各方針に伴う優先順位執行
- ・説明骨子) 当初の2020年度予算から25%減額案・50%減額案で調整中の内容をお認めいただき、社員総会ではさらに現実的な数字を示す。2021年の財務ポリシーは、オリンピック・パラリンピックと諸事業が実施できるかどうかで三つのシナリオで財務を組み立てているが、修正予算においても事業の優先順位を決めて執行する。

第4号議案) 2020年度限定U23・U19・U15高校生日本選手権出場基準
標題について、事務方から説明があり、質疑応答の後、議長が賛否を求めたところ、満
場異議なく承認可決した。

- ・ 承認事項1) 第10回日本U23トライアスロン選手権(2020/長良川) 出場
基準(変更案) <日本選手権がお台場で開催された場合>
- ・ 承認事項2) 日本U19トライアスロン選手権(2020/長良川) 兼 全国高等
学校トライアスロン選手権(2020/長良川) 出場基準(案)
- ・ 承認事項3) 第22回日本U15トライアスロン選手権(2020/長良川) 出場
基準(変更案)
- ・ 説明骨子) U23はエリートがお台場で開催された場合を想定して提示している。
加盟団体推薦は個別記録会の記録を可とする。U19の年代のうち、高校生選手権
の対象選手は別途表彰する。
- ・ 主要意見) 2019年開催のU23カテゴリーの1位選手にアジア選手権の出場資
格付与を持ち越しとするかを審議する必要がある。

第5号議案) COVID-19対策(国内ガイドラインと各大会適用)

標題について、小池事業企画委員から説明があり、質疑応答の後、議長が賛否を求めた
ところ、満場異議なくその方向性について承認可決した。

- ・ 説明骨子) ITUのCOVID-19主催者予防ガイドラインの和訳並びにJTU
の国内向け運営ガイドラインは、JTUのウェブサイトで公開している。各ガイド
ラインの理解を深める目的で6月7日に勉強会を開催、大会ディレクター、大会関
係者、地域ブロック理事、専門委員会から約50名が参加した。なお、6月21日に
二回目となる勉強会を予定。今後大会で運用していく上では、事前準備・現場確認
対応を専門委員会とイベントチームで履行状況の確認を行いつつ、各大会のサポ
ート、ノウハウの蓄積をしていく。新型コロナウイルス感染による保険については今
のところ適用できるものがないという状況。

第6号議案) ワールドトライアスロン(国際トライアスロン連合) 役員・委員の改選

標題について、大塚専務理事から説明があり、質疑応答の後、議長が賛否を求めたとこ
ろ、満場異議なく承認可決した。

- ・ 承認事項) ワールドトライアスロン理事・委員会メンバーの改選に伴う候補の推薦
基準
- ・ 説明骨子) 4年に1度の理事専門委員会のメンバー改選において前回までは自薦他
薦で理事会承認をいただいたが、今回からは以下の基準※を設定して立候補に結び

つける。※1) ITU内でのプレゼンス、2) JTU内での評価、3) コミュニケーション力

6月20日までに推薦を受け付け、6月24日の臨時理事会で推薦者を決定する。

第7号議案) 2021海外・アジアエイジグループ関連大会の出場基準

標題について小池事業企画委員から説明があり、質疑応答の後、議長が賛否を求めたところ、満場異議なく承認可決した。

- ・ 承認事項1) 2021 ITU 世界・アジアエイジグループスタンダードトライアスロン選手権日本代表選手エントリー基準 (2020/6/8改定案)
- ・ 承認事項2) 2021 ITU 世界・アジアエイジグループ・ロングディスタンストライアスロン選手権日本代表選手エントリー基準 (2020/6/8改定案)
- ・ 承認事項3) 2021 ITU 世界・アジアエイジグループ・スプリントトライアスロン選手権日本代表選手エントリー基準 (2020/6/8改定案)
- ・ 承認事項4) 2021 ITU 世界・アジアエイジグループ・アクアスロン選手権日本代表選手エントリー基準 (2020/6/8改定案)
- ・ 承認事項5) 2021 ITU 世界・アジアエイジグループ・スタンダードデュアスロン選手権日本代表選手エントリー基準 (2020/6/8改定案)
- ・ 承認事項6) 2021 ITU 世界・アジアエイジグループ・ロング・ミドルディスタンスデュアスロン選手権日本代表選手推薦基準 (2020/6/8改定案)
- ・ 承認事項7) 2021 ITU 世界・アジアエイジグループ・スプリントデュアスロン選手権日本代表エントリー基準 (2020/6/8改定案)
- ・ 承認事項8) 2021 ITU 世界・アジアエイジグループ・クロストライアスロン選手権日本代表エントリー基準 (2020/6/8改定案)
- ・ 承認事項9) 2021 ITU 世界・アジアエイジグループ・アクアバイク選手権日本代表エントリー基準 (2020/6/8改定案)
- ・ 説明骨子) 2020年度の大会開催ができていないため、より多くのエイジ選手に世界で戦うチャンスを提供したいという方針のもと、来年のエントリーまでの大会実績を追加したことが改定点。

第8号議案) 2020年世界マルチスポーツ選手権の2021年延期に伴う基準改定標記に関し、担当の中島靖弘リーダーから説明があった。須山理事から「代表選手選考大会のみで選出するべきであり、記録会のタイムを取り入れた選考基準は設定しない方法にするべき」との意見提案があり、協議を行った。

大塚専務理事から、本基準は2016年から世界マルチスポーツ選手権の中に位置づけ

られている世界ロングディスタンストライアスロン選手権と世界デュアスロン選手権においては世界トップレベルで闘えることを目指せるレベルの選手を記録的にも厳選して選考するJTU方針を理事会決議として採用し、マルチスポーツ対策チームにこのJTUの世界選手権選考方針に準じた本基準の作成を依頼してきた経緯があることを前提に、本日の意見交換での様々な意見も参考にして、今までの方針を否定することなく、新たに進化した世界ロングディスタンストライアスロン選手権の日本代表選手選考基準の検討を行うことを決定した。(補足情報：2020世界ロングディスタンストライアスロン選手権は中止。2021世界ロングディスタンストライアスロン選手権の各国代表選手参加規定はITUから未発表)

以上について、議長は、ITUの発表を待って、次回以降の理事会に新規案を提出することを求めたところ、満場異議なく承認可決した。

第9号議案) 強化活動における事業実施計画の公示時期方針(40日前以前・2週間前の詳細発表)

標題について、事務方及びアスリート委員会から説明があり、議長が賛否を求めたところ、満場異議なく承認可決した。

- ・承認事項) 合宿基本配信計画(案)並びに報告関連スケジュール
- ・説明骨子) 強化合宿情報配信スケジュールの再確認と合宿などの情報開示の早期化についてアスリート委員会から要望書が提出された。以前にも山本前アスリート委員長より要望を出したが、改善がみられなかった。選手にとっては合宿に合わせて体調を上げていく上で重要であるため、事業実施計画をスケジュール通りに発表してほしい。

<合宿基本配信計画(案)>

1) 男子(オリエリート)

1-1) 基本事項

- ・対象：JOC強化指定選手+最新のOQR140位以内選手
- ・強化体制：ナショナルチーム強化
- ・基本事業：2020JTUEリート男子強化支援事業*JOC強化NF支援事業

1-2) 基本スケジュール

- ・男子全体事業計画(JTU→関係各所)：各月1日に更新(変更なくとも)・配信
- ・合宿基本計画案配信：40日前に対象選手・関係者へ配信
- ・出場意思：28日迄に選手からO対策チーム・事務局へ報告
- ・詳細確定：14日迄に選手とO対策チーム・事務局で確認
- ・開催案内：7日迄に強化関係者へ配信

2) 女子 (オリエリート)

2-1) 基本事項

- ・対象：JOC強化指定選手+最新のOQR140位以内選手
- ・強化体制：個別強化体制
- ・基本事業：2020JTUEリート女子強化支援事業*JOC強化NF支援事業

2-2) 基本スケジュール

- ・女子全体事業計画 (JTU→関係各所)：各月1日に更新 (変更なくとも)・配信
- ・個別事業計画申請：40日前に選手からJTU事務局へ申請
- ・実施確認：28日迄に選手とO対策チーム・事務局で確認・必要に応じ意見交換
- ・実施確定：14日迄に実施内容・精算処理方法などを確定
- ・開催案内：7日迄に強化関係者へ配信

3) U23・U19・U15合宿

3-1) 基本事項

- ・対象：各合宿毎に定義
- ・強化体制：ナショナルチーム強化
- ・基本事業：JOC強化NF支援事業

3-2) 基本スケジュール

- ・シーズン前・年度初に年間計画の策定
- ・全体事業計画 (JTU→関係各所)：各月1日に更新 (変更なくとも)・配信
- ・合宿要項 (日時・場所・定員など)調整：約10週間前 (-70日)
- ・申込開始 (募集形式の場合)：約8週間前 (-56日)
- ・申込締切：約4週間前 (-28日)
- ・参加決定通知：約3週間前 (-21日)
- ・開催案内リリース (加盟団体・メディアなど)：約2週間前 (-14日)

4) パラトライアスロン

4-1) 基本事項

- ・対象：JTUEリート強化指定を基本に各事業毎に定義
- ・強化体制：PTS・VI男子/PTS・VI女子/PTWC 毎のナショナル強化
- ・基本事業：JPC強化NF支援事業

4-2) 基本スケジュール (ナショナル合宿)

- ・全体事業計画 (JTU→関係各所)：各月1日に更新 (変更なくとも)・配信
- ・合宿基本計画案配信：40日前に対象選手・関係者へ配信
- ・出場意思：28日迄に選手からP対策チーム・事務局へ報告
- ・詳細確定：14日迄に選手とP対策チーム・事務局で確認
- ・開催案内：7日迄に強化関係者へ配信

4-3) 基本スケジュール (個別合宿)

- ・全体事業計画 (JTU→関係各所): 各月1日に更新 (変更なくとも)・配信
- ・個別事業計画申請: 40日前に選手からJTU事務局へ申請
- ・実施確認: 28日迄に選手とP対策チーム・事務局で確認・必要に応じ意見交換
- ・実施確定: 14日迄に実施内容・精算処理方法などを確定
- ・開催案内: 7日迄に強化関係者へ配信

<報告関連スケジュール>

- ・移動、到着、帰宅報告
- ・日報: 帯同スタッフありの場合はスタッフが日報報告
スタッフ不在の場合は2-3日の頻度で活動報告
- ・合宿レポート (選手・スタッフ): 7日以内に報告
- ・完了報告・精算 (選手・スタッフ): 14日以内に報告・申請

第10号議案: 強化活動における選手・コーチ・スタッフの行動規範と義務

標題について、事務方及びアスリート委員会から説明があり、議長が賛否を求めたところ、満場異議なく承認可決した。

- ・承認事項1) トライアスロン強化指定選手・スタッフ行動規範の再確認と周知
- ・説明骨子) アスリート委員会より、日本代表として選手とスタッフとがチーム一丸となって強化にあたらなければならないところを、一部スタッフに行動規範から逸脱した行動が見られ、選手が精神的なストレスを受けた、トレーニングの質に影響したという報告があり、既存の行動規範を改めて周知徹底していくという方針を確認した。
- ・承認事項2) JTUアスリート委員会規程
- ・説明骨子) JOCアスリート委員会規程に倣い、JTUアスリート委員会規程の設置についてアスリート委員長より要望あった。JTU細則・専門委員会規程でカバーできている部分も多いが、アスリート委員会の審議事項、特有の委員の選出方法などの項目を別途定義する。
- ・補足事項) 第4条の「なお、委員会運営の便宜を図るためにリーダー1名、総務若干名を置くことができる。」を入れるかについては相談の上調整する。

第11号議案: 2020年度日本選手権 (エリート) 開催場所及び日程

日本選手権 (エリート、U23、U18、U15、高校生選手権) の開催地について、坂田次長より4案が提示された。さらに、小池事業企画委員より、お台場視察報告があった。(U23、U18、U15、高校生選手権は、長良川河川敷を会場とすることが決定している)

が、エリートについては、お台場での可否について意見交換があり、議長は、継続審議として次回理事会(6月24日)に持ち越すことを提案し、満場異議なく承認可決した。なお、次回理事会では一提案に絞り込むことが告げられた。

・主要意見)

- ・ 従来のブランディングや施工にこだわらなければ競技実施は可能である。公園や周辺施設の使用許可や合意形成などを考慮すると、準備期間を要すると想定される。
- ・ 長良川で全カテゴリー実施が経費的にはメリットがあるが、ステークホルダーのお台場での期待値が高く、今後、収支予想なども踏まえ可否を検討する。

[4] 報告事項

1) 強化関係

男子はOQR140以内の選手が3名参加して長野県小諸市での高地トレーニングを実施中。北條選手は東京に拠点を移した。女子代表候補選手は個別強化活動中。パラの各選手も各拠点において個別強化を行っており、7月にASCでの低酸素トレーニング、御嶽での高地強化トレーニングを予定。強化指定選手制度については、ランキング凍結している分を3か月延長して選手の不利益にならないように配慮する。

2) 技術審判関係報告(国際PT、パラPT)

パラの大会の普及を促進するために、技術審判委員会内でプロジェクトチームを立ち上げるようになった。大会運営のサポートだけでなく、スイムエグジットハンドラーアシスタント(SEA)といった人的サポートも含む。メンバーは横浜での大会実績に基づき、パラのNTOとしてかかわる人たちを中心としている。

3) ハラスメント対応に関する確認(通報相談窓口・相談後の対応)

JTUでは、2013年から様々なハラスメントに関する通報相談窓口を常設しており、相談された内容は通報相談処理規程に準じて対応している。JTU関係者はJTU倫理規程の理念と精神のもとに業務を行っていることを改めて徹底していく。トライアスロンを行う者の権利利益を保護し、公正な環境の下でトライアスロンに親しむ機会を確保し、あらゆるハラスメント行為の防止に努めている。改めて、JTU理事会宣言として倫理委員会コンプライアンス委員会を通じ全国に向けて発信する。

4) 社員総会状況 WEB出席 会議出席 議案 スケジュール

6月24日の社員総会には、ブロック理事の協力により47都道府県からの出欠が揃った。ウェブ出席34名、実会場出席が埼玉、神奈川、富山の3名、欠席が10名。議案の資料を6月11日に郵送で発送。

5) 関東ブロックより

9月・10月の九十九里大会、東扇島大会の実施に向けて準備を進めている。また、千葉県連合では、会員サービスとしてオリンピック・パラリンピアンを招いてウェブによるトークを企画している。

6) ワールドトライアスロン女子委員会より

ワールドトライアスロンの Facebook では、COVID-19 下で世界の女子選手らが自宅でどのような活動をしているかの紹介をしているが、日本代表として土田和歌子選手に協力していただいた。すばらしいコメントなので、是非ワールドトライアスロンのHPでご覧になっていただきたい。

[5] 閉会宣言

國分副会長の挨拶の後、本日の理事会すべてが終了したことが告げられ、13時48分に閉会した。

議事録署名人：

(岩城光英・議長・会長・代表理事) (印) 2020年 月 日

(荻原政吉・監事) (印) 2020年 月 日

(秋山智昭・監事) (印) 2020年 月 日

(大塚眞一郎・専務理事) (印) 2020年 月 日

(園川峰紀・理事) (印) 2020年 月 日

<別添資料>

○参考主要意見 *複数の理事・担当者からの意見を求めた結果

第8号議案（主要意見）

- ・ 選考基準でスイム 400mのタイムをクリアできなくても対象大会で上位に入れば選考してほしい。さもないと、選考対象大会での下位の選手が優先される可能性がある。
- ・ スイムである程度の順位で上がり、バイク、ランを競い合う状況となるために、JTU 理事会方針により、対象大会と記録会タイムの両方を選考基準としている。
- ・ 400mではなく大会同等距離が理解されやすいが、長時間の会場確保が難しく、3000mを意識したタイム設定としている。
- ・ 世界選手権には標準記録が設けられており、これをトレーニング指標として競技力が上がり上位入賞につながった日本代表も多数いる。
- ・ 世界選手権では、NF 方針に従うものであり、スイムタイム基準は妥当である。今後の検討課題は、強化と普及のバランスである。
- ・ ロングディスタンスでは選手が少なく、強化とともに普及も必要である。「400m達成義務ではなく、クリアできるように努める」と緩和し、しばらく様子を見てはどうか。
- ・ 現在のロング選手の状況を分析し、日本代表選手基準を緩和し、強い競技者数が増えたら再度競い合える高いレベルの基準を設けるのも一案である。
- ・ JTU 責任での派遣だが、その年の選手状況に合わせた基準づくりが必要かもしれない。ただし、旅行気分に参加するものではない。
- ・ 世界選手権には、世界で戦える選手派遣が求められているが、選手数が充足されなければ、自費参加に関しては、意欲ある選手のために基準を緩和し、目標数値を設けることを改めて検討してはどうか。
- ・ スイムの数値だけでなくバイクの数値もクリアできるように条件づけてもよい。
- ・ 選考対象の佐渡大会（2020年）が中止となったこともあり、選考基準を再検討する余地はある。
- ・ 日本のロングディスタンスの底上げにつなげていくことが望ましい。

以上